

Vol.
14

チューバの魅力はハーモニーがぴったり合ったときの充実感

チューバ首席 久保 和憲 (くぼかずのり)



Q 楽器を始めたきっかけは？

A トランペットを吹いていた兄の影響です。小学校1年生のときに神奈川県から宮城県登米市へ。翌年小学校が統合されて、登米市豊里町の只野建設さんが金管バンドができる編成の楽器を寄付してくださり金管バンドができたんです。僕は3年生からトランペットを始め、その半年後にトロンボーンに移りました。中学校の吹奏楽部で僕がチューバをやれば吹奏楽コンクールに出られるということで、中学1年生からチューバを始めました。中学3年生のときに、「管打楽器フェスティバル」というソロコンテストの東北大会でグランプリを取ってしまって、周囲の先生方のすすめで高校1年生の終わりくらいから東京へレッスンに通う事になりました。只野建設さんの寄付がなければ楽器を吹いていなかったと思いますし、音楽の道を許してくれた家族にも心から感謝しています。

Q チューバの魅力を教えてください。

A ハーモニーがぴったり合ったときの充実感ですね！あと、良い音が出たときの吹き心地が良いんですよ。これは吹いている人にしかわからないと思うんですけど、低音を吹いていると眼球が揺れて楽譜や指揮者がぼやけて見えます！（笑）そんな充実感で低音の魅力に惹かれました。

Q 好きなチューバ奏者は？

A 影響を受けた奏者はたくさんいますが、最近好きな奏者は、ステファン・ラベリ（パリ管弦楽団首席）。音色も音楽的にも素晴らしいです！

Q 好きな作曲家は？

A たくさんいますが、敢えて一人挙げるとしたら、ミシェル・ルグランです。映画音楽などを作曲しているフランスの作曲家でピアニスト。大分前ですが、「題名のない音楽会」で神奈川フィルさんに客演した際に、ルグランさんと羽田健太郎さんの2台のピアノでの共演があったんです。それが本当に素晴らしくて…ステージ上で吹きながら泣きました（心の中では号泣！）。2人の天才の奇跡的な友情の中。あの瞬間に一緒にステージにいられたことは財産だなあと思います。

Q 現在の使用楽器について教えてください。

A C管は、M.W.ニルシュルのヨークモデルと、マイネル・ウェストンの2000モデルの2台。F管は、B&Sの3199です。

Q 山形の最初の印象を教えてください。

A 最初の山形の印象＝山響の印象です。20年くらい前、大学を卒業したかしないかくらいにエキストラで何度か呼んでいただきました。バス・トロンボーンの高橋智広さんが素晴らしかった！この事が強く印象に残っていて、今一緒に演奏できていることが嬉しいですし、ご縁を感じます。

Q 山形でお気に入りの場所は？

A 田んぼの真ん中にある温泉と蔵王の焼肉屋さんです！！

Q 休みの日は何をして過ごしていますか？

A 普段は横浜に住んでいて、やはり留守になりがちですので家族と一緒に過ごす時間を大切にしています。もちろん楽器も吹いていますが時間がある時は、いくつかの音を思うがままに、余計な力が抜けるようにゆったり吹いて音色を整えます。練習みたいですがこれは遊び感覚で、楽器と格闘せず楽に息を吸って楽に吐く。徐々に柔らかい音やスピード感のある音、こういう音を出したいとイメージしていきます。音質が整うと、曲も更に吹きたくなります。出したい音を撮るという作業が楽しいんです。随分前ですが調子を崩し、この先楽器を吹き続けるのは無理かなと、数年間悩んだ時期がありました。でも、心の中を整理していくとやっぱり楽器を吹ける人生と言うのは幸せな事なんだと改めて感じさせられました。楽器と音楽と接している時間は何事にも変えられない、自分と向き合えるかけがえのない時間です。

Q 最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

A 仕事柄いろんなオーケストラに客演していますが、山響は素晴らしいオーケストラ！山響には山響独自のサウンド感があって、特別な存在。山形の景色や美味しい食べ物もどこかで音に繋がっているとします。いろんな人に聴いていただき、その良さをもっとたくさんの人に分かってほしいという思いがあって…。非日常を味わうでも、気軽に気分転換にでも、好きな作曲家の曲をじっくり聴きにでも、気軽にいろんな方々に聴いていただきたいなと思っています。

本日ご来場のお客様、いつも山響の演奏会にいらしていただき、本当にありがとうございます！

次回は、中島 光之さんです